

付録-7 詳細調査報告書作成要領（案）

—目次—

	ページ
詳細調査写真.....	1
コンクリート健全性調査票.....	2
アルカリ骨材反応調査.....	6
塩害調査票.....	8

詳細調査調書（その１）詳細調査写真

管理番号		工営所		路線名				監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称		所在地	起
委託名				業者名				点検者名		終	

詳細調査写真	写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日	
			位置記号				部材名	
			部材記号				部材記号	
			損傷の種類				損傷の種類	
			損傷度評価				損傷度評価	
			メ	モ			メ	モ
	写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日	
			位置記号				部材名	
			部材記号				部材記号	
			損傷の種類				損傷の種類	
			損傷度評価				損傷度評価	
			メ	モ			メ	モ

コンクリート健全性調査票（調査位置概要図）

管理番号		工 営 所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称	
委託名				業者名				点検者名	
								所在地	起 終

調査位置図	
そ の 他	

※ 調査箇所の概要がわかるような記録をする（橋梁全体のどの径間を調査したか、どの部材を調査したかわかるように記入する）

中性化深さ調査票（調査結果）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		所在地	
委託名				業者名		点検者名		起終	

調査位置詳細図（※1）				調査結果			
・記入例				調査径間	1	調査径間	
				調査部位	主桁	調査部位	
				(m) ① 中性化深さ測定結果（※2）	80.0	(m) ① 中性化深さ測定結果（※2）	
				②	97.0	②	
				③	95.0	③	
				平均	90.7	平均	
				(m) ① かぶり深さ測定結果	30.0	(m) ① かぶり深さ測定結果	
				平均	30.0	平均	
				環境条件（通常：1、塩害：2）	1	環境条件（通常：1、塩害：2）	
				発錆限界深さ（※3）	20.0	発錆限界深さ（※3）	
				竣工年	1987年	竣工年	
				供用年数		供用年数	
判定（中性化進行状況より、コンクリートの品質低下が懸念される場合は×、されない場合は○）				×			
その他				中性化深さが著しく大きいため、コンクリートの品質低下が懸念される。			

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする（基本となる部材からの距離などを記入）。

※2 中性化深さは3箇所測定し、それらの値は平均値からの偏差が±30%以内でなければならない。（平均値からの偏差(%)=[(個々の値－平均値)／平均値]×100）

※3 発錆限界深さは、通常環境（かぶり深さ-10mm）、塩害環境（かぶり深さ-25mm）とする。

圧縮強度調査（コア法）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		所在地	起
委託名				業者名		点検者名			終

調査結果	試料1	位置記号	• 記入例		供試体寸法	質量 (kg)	1.214
		1	供試体質量 (g)		1214	見掛けの密度	2410
			供試体長 (mm)	1	136.8	• 記入例 最大荷重 f_c' (N)	111000
				2	137	高さ補正值	1
		部材記号	平均		136.9	高さ補正後圧縮強度 (N/mm ²)	30.1
		主桁	供試体直径 (mm)		68.4	静弾性係数 (kN/mm ²)	24.5
					68.6	設計基準強度 (N/mm ²)	14
			平均		68.5	判定(圧縮強度>設計基準強度なら○)	○
	試料2	径間	供試体寸法			質量 (kg)	
			供試体質量 (g)			見掛けの密度	
			供試体長 (mm)	1		最大荷重 f_c' (N)	
				2		高さ補正值	
		部位	平均			高さ補正後圧縮強度 (N/mm ²)	
			供試体直径 (mm)			静弾性係数 (kN/mm ²)	
						設計基準強度 (N/mm ²)	
			平均			判定(圧縮強度>設計基準強度なら○)	
	試料3	径間	供試体寸法			質量 (kg)	
			供試体質量 (g)			見掛けの密度	
			供試体長 (mm)	1		最大荷重 f_c' (N)	
				2		高さ補正值	
		部位	平均			高さ補正後圧縮強度 (N/mm ²)	
			供試体直径 (mm)			静弾性係数 (kN/mm ²)	
						設計基準強度 (N/mm ²)	
			平均			判定(圧縮強度>設計基準強度なら○)	

圧縮強度調査（反撥硬度法）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		所在地	起
委託名				業者名		点検者名		所在地	終

・記入例

調査結果	調査No	1	調査No	
	調査部位	主桁	調査部位	
	測定回数	測定値	測定回数	測定値
	1	48	16	47
	2	45	17	44
	3	51	18	50
	4	47	19	46
	5	50	20	49
	6	45	21	44
	7	47	22	46
	8	48	23	47
	9	44	24	43
	10	44	25	43
	11	53	26	52
	12	46	27	45
	13	44	28	43
	14	45	29	44
	15	45	30	44
	平均値	23	平均値	
	標準偏差σX	4.47	標準偏差σX	
	打撃角度α(°)	+90°	打撃角度α(°)	
	角度補正值ΔR	-3.1	角度補正值ΔR	
	補正反発硬度R	19.9	補正反発硬度R	
	補正前圧縮強度F' (N/mm2)	7.3	補正前圧縮強度F' (N/mm2)	
	材齢係数K	0.63	材齢係数K	
	補正後圧縮強度F (N/mm2)	4.6	補正後圧縮強度F (N/mm2)	
	設計基準強度(N/mm2)	18	設計基準強度(N/mm2)	
	判定	○	判定	

アルカリ骨材反応調査（調査位置概略図）

管理番号		工営所		路線名				監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称			
委託名				業者名				点検者名		所在地	起 終

位置記号		～	部材記号	
調査位置図（※1）				
その他				

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする。（基本となる部材からの距離などを記入）

アルカリ骨材反応調査（調査結果）

管理番号	工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称	延長		幅員		建設年		交差対象物名称	
委託名	業者名		点検者名		所在地		起終	

位置記号		～		部材番号											
調査結果（※1）	試料1	基長 (mm)	・記入例												
		標準養生	解放膨張量 (mm)	解放膨張率 (%)											
		時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W	
		残存膨張量 (mm)	0.026	0.036	0.037	0.04	0.039	0.043	0.047	0.047	0.048	0.048	0.049	0.049	
		残存膨張率 (%)	0.026%	0.036%	0.037%	0.040%	0.039%	0.043%	0.047%	0.047%	0.048%	0.048%	0.049%	0.049%	
		時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W					
		残存膨張量 (mm)	0.049	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048					
		残存膨張率 (%)	0.049%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%					
		全膨張量 (mm)	0.048												
		全膨張率 (%)	0.048%												
		残存膨張性	無												
		基長 (mm)	・記入例												
		標準養生	解放膨張量 (mm)	解放膨張率 (%)											
		時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W	
		残存膨張量 (mm)	0.026	0.036	0.037	0.04	0.039	0.043	0.047	0.047	0.048	0.048	0.049	0.049	
残存膨張率 (%)	0.026%	0.036%	0.037%	0.040%	0.039%	0.043%	0.047%	0.047%	0.048%	0.048%	0.049%	0.049%			
時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W							
残存膨張量 (mm)	0.049	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048							
残存膨張率 (%)	0.049%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%							
全膨張量 (mm)	0.048														
全膨張率 (%)	0.048%														
残存膨張性	無														
試料2	試料3	基長 (mm)	・記入例												
		標準養生	解放膨張量 (mm)	解放膨張率 (%)											
		時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W	
		残存膨張量 (mm)	0.026	0.036	0.037	0.04	0.039	0.043	0.047	0.047	0.048	0.048	0.049	0.049	
		残存膨張率 (%)	0.026%	0.036%	0.037%	0.040%	0.039%	0.043%	0.047%	0.047%	0.048%	0.048%	0.049%	0.049%	
		時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W					
		残存膨張量 (mm)	0.049	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048					
		残存膨張率 (%)	0.049%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%					
		全膨張量 (mm)	0.048												
		全膨張率 (%)	0.048%												
		残存膨張性	無												
		アルカリ骨材反応 (※2)	×												
		判定	×												
		評価													

※1 促進養生試験（JCI-DD2）またはカナダ法に準じて分析した結果を記入する。カナダ法の場合は、2週目までの測定値を記入する。

※2 試料1～3の最悪値とする。

塩害調査票（調査位置概要図）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称	
委託名				業者名		点検者名		所在地	起 終

調査位置図	
その他	

※ 調査箇所の概要がわかるような記録をする（橋梁全体のどの径間を調査したか、どの部材を調査したかわかるように記入する）

塩害調査票（調査結果）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		所在地	起
委託名				業者名		点検者名		終	

調査位置詳細図（※１）			調査結果						
• 記入例			位置記号		導流部A				
			部材記号		Wa1				
			含有塩分量 測定結果 (kg/m3) (※2)	表面部（0-30mm）		0.25			
				中間部（30-60mm）		0.2			
				深部（60-90mm）		0.1			
				深部（90-120mm）		0.1			
			中性化深さ(mm)		2				
			かぶり深さ測定結果(mm)		80				
			鉄筋位置の塩化物イオン濃度		0.1				
			竣工年		1989				
供用年数		22							
判定（1.2kg/m3以上：要対策, 1.2kg/m3未満：対策不要）			対策不要						
評価	塩化物イオン濃度は極めて低く、塩害による損傷が生じる可能性は低い。								

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする（基本となる部材からの距離などを記入）。

※2 JIS A 1154に準じて分析した結果を記入する。